

令和6年度岐阜県芸術文化顕彰受賞者

すずき てつ
鈴木 徹 陶芸家

(敬称略)

- ・23歳の時に父、鈴木藏氏に師事し、陶芸を始める。作品は織部という範疇を超えたものを表現したいとの思いから、現代の技術で独自の作品を作り上げている。令和6年に、多治見市無形文化財「織部」保持者に認定された。
- ・平成17年に菊池ビエンナーレ大賞、平成20年に新作陶芸展日本工芸会賞、平成27年に日本伝統工芸展NHK会長賞、平成28年に日本陶磁協会賞を受賞するなど、受賞歴も多数。
- ・現在は、日本工芸会正会員・東海支部幹事長を務めるなど、陶芸界の発展にも寄与している。



たなか きょくせん
田中 旭泉 琵琶奏者

- ・琵琶の収集家であった祖父の影響で、6歳の頃から琵琶を習い始める。平成5年に琵琶奏者の登竜門となる「第30回琵琶楽コンクール」で最年少にて、第1位入賞。文部大臣奨励賞、日本放送協会会長賞を受賞。
- ・令和4年には「リトアニア NOW 2022」オープニングイベントへの出演、「清流の国ぎふ」文化祭2024では「地芝居・伝統芸能フェスティバル」の文楽公演や、八百津町主催の「筑前琵琶演奏会」に出演するなど、県内での演奏会にも多数出演。
- ・「子ども琵琶倶楽部」を立ち上げ、地域の子どもたちに琵琶の楽しさを伝える活動や、恵那観光大使として、岐阜県の地域振興にも貢献している。



よねざわ ほのぶ
米澤 穂信 小説家

- ・平成13年『氷菓』で角川学園小説大賞奨励賞を受賞し、デビュー。平成24年に同作は飛騨高山をモデルにテレビアニメ化。
- ・平成26年『満願』で山本周五郎賞を受賞。令和3年『黒牢城』で山田風太郎賞を受賞。さらに令和4年に同作で直木賞、本格ミステリ大賞を受賞。
- ・「清流の国ぎふ」文化祭2024では、「清流の国ぎふショートショート文芸賞」の特別審査員を務め、講演会を実施。原作を務めたテレビアニメ『氷菓』『小市民』では、岐阜県の様々な場所が舞台として登場し、台湾や韓国などから聖地巡礼に訪れる方もいるなど、岐阜県の地域振興にも貢献している。



撮影：千川 修

令和6年度岐阜県芸術文化奨励受賞者

かゆかわ あい
粥川 愛 ピアニスト

- ・バロックから近現代まで常に幅広くレパートリーを開拓しながら、サラマンカホールでのリサイタル、美濃市の音楽ホールこけら落とし公演、岐阜県交響楽団や母校加納高等学校100周年記念オーケストラ共演など、ソリストを軸に様々な演奏活動を行う。
- ・平成21年に日本モーツァルト音楽コンクール第1位受賞。平成22年にエウテルペ国際ピアノコンクール第1位受賞、岐阜県文化・スポーツ功績賞（現・清流の国ぎふ栄誉賞）受賞。
- ・「清流の国ぎふ」文化祭2024の開会式、関ヶ原ナイト野外朗読音楽絵巻に出演など、多岐に渡り活動している。



かんべ ともゆき
神戸 智行 日本画家

- ・身近な自然や生き物を奥行のある表現で描く、「イノセントワールド」シリーズで注目を集め、国内外で個展を開催するなど活躍を続ける。
- ・平成20年に文化庁在外研修員としてアメリカボストンにて制作活動を実施。
- ・平成26年より太宰府市に転居し、太宰府天満宮にて24面もの襖絵の大作を制作。完成した襖絵は、今年7月に岐阜県美術館にて「千年を描く」太宰府天満宮襖絵巡回展を開催。令和9年に控える菅原道真公1125年太宰府天満宮式年大祭に合わせ奉納が予定されている。



ぎふけんりつせきこうとうがっこうちいきけんきゅうぶ
岐阜県立関高等学校地域研究部

- ・考古学や歴史学に関する研究や実践を通して、全国規模の大会で過去7年間、最上位賞を連続受賞。
- ・セミナーやシンポジウム、模擬国連会議を企画するなど、地域での活動も積極的に行う。
- ・今年8月に行われた清流の国ぎふ総文2024では、中濃地域の戦国史に関する研究成果を発表し、郷土研究部門で最優秀賞を受賞。



令和6年度岐阜県芸術文化奨励受賞者

しかの りゅうせい
鹿野 竜靖 箏奏者

- ・幼い頃より様々な日本の伝統文化に触れ、11歳より沢井一恵氏に師事。現在、東京藝術大学音楽学部邦楽科在籍中。
- ・平成28年に利根英法記念邦楽コンクール「アンサンブル」小中学生の部最優秀賞、平成29年に全国小中学校箏曲コンクール中学生の部金賞及びグランプリ、令和5年に全国邦楽合奏協会コンクール第1位、賢順記念全国箏曲コンクール第1位など、様々なコンクールで優秀な成績を収め、令和6年より文化庁「邦楽普及大使」を務める。
- ・「清流の国ぎふ」文化祭2024ジュニア文化祭では、自身が作曲した箏曲を演奏するなど、県内での演奏活動も積極的に行う。



まつお しほこ
松尾 志穂子 打楽器奏者

- ・打楽器・マリンバ奏者、作曲家として様々なジャンルで幅広く活動。障がいの有無に関わらず誰もが楽しめ、参加できるコンサートの演奏、企画に携わる。
- ・「ドラムサークルファシリテーター」（ガイド役）として、教育、地域、福祉など様々な現場でドラムサークルを展開。特に障がい者施設での継続的活動に力を入れ、障がい者の音楽療法的なドラムサークル活動を多く行う。様々な人々を繋ぎ、地域における共生社会づくりの一助を担っている。

